友達と私
ー気が置けない関係ー

8グループ　中島萌花(なかじまもえか)

私たちのグループは中国出身のイツと韓国出身のジニと日本の私がメンバーとなった。近い国同士ではあるが、ちょっとした違いや似ている文化なども見つけられて楽しそうなメンバーだと思った。

初めの散歩の場所は秋田大学医学部。グループのメンバーの中で、医学部は私しか居なかったので、普段友達と多く接する医学部を案内した。保健学科を中心に紹介して、まだまだ専門科目は習っていないが、授業の内容などを話した。途中、人体の模型やホルマリン漬けを見つけ、ジニとイツに解剖はするのかと聞かれたので、最近見学した人体の解剖の話をすると、苦笑いをしていた。グロテスクなのが苦手らしい。実際、私が友達とご飯を食べている教室や、ロッカーなど友達との空間を紹介できたと思う。お弁当を保健学科の近くの公園で食べる予定だったが、前の日に雨だったため濡れていたので、私が二人の住む留学生会館に行きたいとリクエストし、留学生会館に行くことになった。その途中、ジニとイツのお弁当を買いに行った。イツがすごく迷っていてねばねば丼はどんなものかと聞いてきたので、とろろや納豆の説明をした。ちょっと興味半分だったようだが、ねばねば丼にしたみたいだ。一方、ジニはのり弁に即決。ジニとイツそれぞれの性格が垣間見えた気がして面白かった。留学生会館では時々パーティーをすることもあるらしく、二人の友人関係も感じられた。また、一緒にご飯を食べることで、ゆっくり話す時間もあり、二人とも友達になれたと思う。イツが納豆やとろろが初挑戦でねばねば丼を食べていた。わさびが中国のものより全然辛くないと言っていて中国もわさびがあることと、わさびの辛さにも強いことにびっくりした。

次の散歩は駅前でウインドウショッピング。前回の散歩で、ジニが日本のファッションは多様だという話をしていたので、洋服を見て回った。お互いに似合う服を見つけたり、欲しいものを探したりして、時間が過ぎてしまうのが早く感じられるほど、オシャレや買い物をするのは国籍関係なく楽しいのだと感じた。安い洋服屋さんや、私のお気に入りの洋服屋さんを見て回った。意外にも二人ともお店を知っていたので二人ともファッションには敏感なんだと感じた。途中、みんな夢中になって見ていたのがステーショナリーだった。何故か三人ともたくさんの種類のステーショナリーを見始めてかわいいものや個性的なものを探していた。かなりの時間そこにいた気がするくらい私たちは興味津々だった。次に、お昼ご飯を食べることにしたのだが、パスタ、うどん、ハンバーガー、ラーメンとなかなか決まらず迷ったが、近くにお好み焼き屋さんがあるよと教えるとイツがお好み焼きをジニはもんじゃ焼きを食べたことがないと言ったので食べに行くことにした。もんじゃを初めて作り、混ぜるときにこぼしたり、作る工程を間違ったりとハプニングもあったりしたが、おいしくできた。二人は写メを取り巻くって楽しそうだった。お好み焼きはお店の人に焼いてもらい、あとで来たのだ

が、ジニはもんじゃが気に入ったようでお好み焼きよりもんじゃを黙々と食べていて面白かった。二人とも大阪焼きは食べたことはあるようだったので、お好み焼きの種類(大阪風や広島風)を説明するのが難しかった。二人と、楽しい時間を過ごせて友達になれて良かった。

わたしたちは今回の二回の散歩をベースに自分にとって何が大切だと思えるのかを話し合った。私の大切なものは友達だったので、二人に意見を求めると二人とも強く共感してくれた。二人とも留学生だということもあって、人と人とのつながりが大切だと考えているようだった。

ジニは一人で留学し、韓国にいる友達が恋しくなったこともあったが、今では日本でできた友達とは一緒にいる期間は短いけど、深い付き合いになっているそうだ。イツは、同じ大学から自分を含めた３人が秋田大学に留学することになっていたので、あまりさみしく感じなかったようだ。しかし、話す言葉が分からなかったりすることも多いらしく、そんな時はお互い知っている言葉で補い合っていけるので助かったそうだ。また、子供のときとはまた違った交友関係を築けているという話にもなった。子供のころはずっと一緒にいたりグループを作ったりする交友関係だったが、大学生になってからは一人の時間も増え、いろんな人とコミュニケーションを取れるようになった。

私は、秋田出身なので秋田大学にはたくさん知り合いがいるほうだと思う。だから、友達がいなくてさびしいと感じたことはないが、日々、友達の大切さを感じている。例えば、大学に入ってすぐ、慣れない電車通いと自分で授業を決めたり単位を考えたりする初めての体験でかなり疲れていた。電車ではぐったりして、一緒に電車で大学に行っていた友達とも口をきかないでいたりもした。しかし、その友達は黙って機嫌が悪くなることもなく一緒にいてくれた。後々聞くと、その友達も私と同じように疲れていて、おしゃべりする気力がなかっただけらしい。私はそれを聞いて、びっくりした。その友達とは高校の部活も一緒だったのだが、いつも笑顔で明るくて悩みなんてなさそうに見えるのに、私と同じように気持ちが疲れたりするのが意外だったからである。そして、何も言わなくても励まし合わなくても共感しあえていることがとてもうれしくなった。また、それは高校時代に同じ部活をやっていてつらい練習を一緒に乗り越えてきたからこその空気感なのかもしれない。お互いが一緒にいて楽で楽しいと思えたら通じ合えるのだと感じた。

私は友達といるといつも笑顔になってしまう。些細な会話やくだらないことで嫌なことを忘れられるくらい気持ちが安らぐ。小さいころからも友達といるのはもちろん楽しかったけれど、特に大学に入ってからは身に染みて感じるようになった。大学では一人で決めなければいけないことややらなければいけないことも増えたけれど、何も言わなくても辛いときに気付いてくれたり、共感してくれたり、通じ合える友達がいることが私にとって何より嬉しく、大切なことなのだと感じるからだ。私はお互い程よい距離感と信頼があれば相手を客観的に見られるし、相手のことばかりを気遣うことのないような強い関係を築けると思っている。高校時代の部活動で、自分のミスを指摘してもらったり注意したり、素直に言い

合える友達関係を知り、大学に来てさらに自分の時間と友達との時間をそれぞれ楽しめるようになったから気付いたのだと思う。私は友達のいつも笑顔で誰とでも仲良くなれるところや、切り替えがしっかりしているところを尊敬しているし、自分もそうなりたいと思う。そして、遠慮したり気をつかったりする必要がなく、心から打ち解けることができる「気が置けない」関係を大切にしていきたい。

私にとって社会とは、自分を構成する一部だと思う。友達や家族や文化や地域などどれが欠けても今の私は存在しないと思う。それと同時に社会も私たちがいなければ成り立たないものである。自分で自分の居場所や存在を作っていくのが社会だと思う。

今回、外国人としてではなく一人の人としてイツやジニとたくさん話せたことが嬉しい。韓国人だからとか中国人だからとかいうくくりが自分の中で薄くなった気がした。ただ、多文化なので日本や秋田を巡るだけでなく世界中の文化についても２人と話してみたかった。